

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105391		
法人名	有限会社 オフィスフジワラ		
事業所名	グループホーム あうん		
所在地	岡山県岡山市東区松新町82-6		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105391-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年間、職員の顔ぶれが大きく変わることなく、馴染んだメンバーで共に仕事が出来た。新しく迎えた職員も加えて、人員はより充足し、ゆったりとした支援の実践に繋げることが出来ている。また、事業所として次の理念を大事にしている。◎利用者一人ひとりが、居心地よく自分らしくしていただける生活の支援を行う。◎家族の方とは、日頃から意思の疎通を心がけ、安心と満足を感じていただく。◎家族の方には、共通の目的を持った理解者となっていただく。事あるごとに、理念に立ち返り、日々の支援の中で実践に努めており、職員皆で同じ方向に向かって歩めていると思う。今年度は、事業所内研修の年間計画を立て、毎月のミーティング時に研修の時間を織り込んでいくことができたことも評価したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山市東部の商業施設や学校、レストランなどが点在する住宅地に事業所は位置している。事業所理念を大切にし、入居者支援においては丁寧な言葉かけを心掛けて、本人の思いや暮らし方を知り、意向に沿った対応に努める。家族からは、運営推進会議や面会時に要望を聴き、出された意見を反映しているので安心されている。また「利用者がのびのび楽しく」と共通の目的を持った理解者でもある。月1回導入している岡山市の移動図書館の折には、近隣の子供達も一緒に利用し、小学校の総合学習の授業講師を請け負い、認知症や介護に関する相談を受けて認知症の理解を図る等、地域に開かれた事業所として貢献している。高齢化が進む中、ますます地域の認知症理解を深める役割を担う開かれた相談事業所として発展していける事に期待を寄せる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行うミーティングの場で読み上げたり、機会ある毎に、理念に立ち返り、日々の実践につながっていることを確認している。	理念に対する理解を示し、ミーティング時に振り返ったり、日誌に理念を記して認識付けを図り、実践に繋がる様努めている。入居者の要望を重要視して居心地良い居場所を提供し、暮らし易さを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業所としての認知はされている。近隣の住民や学校園との交流もあり、幼稚園の七夕会に招待されたり、近隣の保育園児をホーム畑の芋ほりに招待して一緒に楽しむこともある。また、散歩に出た折には、しっかり挨拶するなど努めている。	近隣の住民や学童・園児等、繋がりを持ちながら暮らしている。体験学習を受け入れ、認知症や介護相談の講師を請け負い、地域貢献に努めている。移動図書館が立ち寄り、子供達が本を借りに来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護に関する相談を受けることは多い。地域の小学校の総合学習「高齢者、認知症高齢者を知る」の授業講師を請け負ったり、体験学習の受入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用者やサービスの状況報告は毎回実施。町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加メンバーであり、意見や情報交換は活発に行われており、その都度、議事録を掲示することで周知もしている。	運営推進会議は、行政、家族、民生委員、町内会長が参加してくれる。空床状況・行事活動報告・転倒等の事故報告、今後の行事予定を伝え、意見や提案を求め協議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや確認したいことが起きた折には、気軽に連絡を取っている。地域包括支援センター担当者は、毎回、運営推進会議に参加し地域の情報も交換している。	運営推進会議の参加を得て、事業所の各種報告をし、行政からの伝達を受けている。市へ移動図書館の依頼をし、書籍の貸し出しを受けられる様支援している。入居者の転倒事故等の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修として、5月、「身体拘束や行動制限をしないケアを目指す！」を実施するなど拘束をしないケアに努めている。尚、緊急やむを得ない場合には「身体拘束に関する説明書・経過観察記録」を用いることを再認識した。	研修にて身体拘束に関する具体的な行為の理解を得て、実践に繋げている。認知症に伴う周辺症状で事例となる事項を取り上げ、解決策を職員で話し合う。環境を整備して柔軟な対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修にて、高齢者虐待防止法について学習した。また、日々、身体を観察を行い異常の発見に努めており、皮下出血や傷を発見した場合は、原因を考え、介助の方法を振り返っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については制度を活用している利用者が居るので馴染みはある。今年、入居後、関係者等の支援によって後見制度に繋がった事例があるので、職員にとっては学びの機会になったと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者への説明や納得は困難である。家族に対しては丁寧な説明を心がけ、理解・納得をしていただいている。また、改定がある時には、文書で報告をしたり、来訪時に報告し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは来所時や個別の連絡の時に気軽に話していただけるよう務めている。また、運営推進会議が外部者に表せる機会になっている。把握した意見や要望は可能な限り、運営やサービスに活かすよう務めている。	入所契約時、重要事項の説明をし、意見を聴いている。「あうん便り」を毎月発行し、利用者やホームの様子を知らせる。面会時、運営推進会議時、年に一度開催する家族会にて意見や要望を聴く。提出された意見や要望は運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニットごとにミーティングを行い、意見交換を行っている。また、管理者は意見や提案を聞く姿勢に努め、聞いた意見や提案は、その都度、代表者に報告し反映できるように務めている。	月1回のユニット会議において職員がそれぞれの立場で意見を出し合い、積極的に話し合っている。管理者は職員個々の要望を考慮に入れ、就業体制を管理している。内部研修を設け、スキルアップに努めている。	理念の達成や取り組みにどう関わっているかを確認し、自己評価をしている。向上を図るためにも継続することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に多くを任せている。給与水準については、介護保険の中で勢一杯応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者に多くを任せているが、研修などに参加する事への援助は惜しまない。今年度は、事業所内研修の年間計画を立て、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が行っている。同業者との交流、相互訪問等行いながら、他所から得た情報を事業所に生かす取り組みも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を関係づくりの第一歩と考えているが、本人からの訴えや要望を聞き取ったり、把握することは難しい。入居後は、安心して生活していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談時より、家族の方の困っていることや不安、要望を丁寧に伺うよう務めている。その後、入所に至るまでも、来訪時や電話連絡時に会話を重ねながら関係づくりを図り、安心して利用してもらうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所相談の中で、家族が今困っていることや不安、悩みに耳を傾けながら、必要であろう情報を提供したり、他のサービス利用を紹介するなど支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の入れ替わりもあり、本人と職員と一緒に家事などをしながら共に過ごしている暮らしの場面は、更に増えたと思う。しかし、利用者を介護される立場に置きがちな面はある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念にも掲げているように、事業所にとって大切にしている事である。職員にも、大切な事としての自覚があり、家族とのコミュニケーションや関係づくりに努めている者がほとんどである。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、家族の来訪は、温かく迎え入れ、関係が継続するよう、また来訪していただけるよう務めている。また、家族と、自宅や自宅付近の馴染みの場所へ行ったり、墓参りに行ったりしている方への支援にも努めている。	家族、知人との関係を大切にし、環境を整えて和やかに過ごせる様支援している。家族参加の昼食会・季節のイベント・家族会を催し、コミュニケーションが取れる様工夫している。彼岸に墓参りに行ける様支援したり、後楽園の菊花展を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しない取り組みはできている。利用者個々の性格や特性を把握し、職員が介入しながら、互いに良い関わりが持てるように努めている。一方、トラブルになりがちな関係もあるので、職員はトラブルに発展しないよう配慮し予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、本人や家族と築いた関係を大切にしている。入院により退所になった方には会いに行ったり家族から様子を聞くなど、相談や支援に努めている。また、退所された方の家族が、再々訪ねて来られている事例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの職員が、本人の思いや希望の把握に努めており、自ら表出できない方についても出来るだけ本人の立場になって考える努力をしている。一方、希望や意向を理解しても、叶えられない現実があることへのジレンマを抱えている者もいる。	本人とのコミュニケーションを深めて意向を汲み上げ、把握すると共に、個人生活歴シート、職員・家族からの情報を勘案して思いに繋げている。困難な場合は日々の介護記録等から状態の変化を知り意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から情報を集めたり、「生活歴シート」を活用して家族からの情報収集を行うなど、把握に努めている。本人との会話から新しい情報を得た場合には、記録に残し、職員皆で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日勤・遅出・夜勤出勤時の際の申し送りで一人ひとりの状態などを引き継ぎながら現状把握に努めている。月1回開催のミーティングも把握する機会である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでの話し合いを元に、介護計画・モニタリングを行っている。また、できるだけ、本人や家族の希望や思いを聞き取り、それを反映した計画作りに努めている。	月1回、定期的なミーティングにてモニタリングを行い、サービスの進捗状況を話合っている。日々の介護記録は詳細に記載され、申し送りを通して対応方法を話し合い、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、日々の様子やケアの実践・結果など、わかりやすく具体的に記録するよう努めている。気づきや工夫は引継ぎ書や連絡ノートに記入されることが多く、申し送りやミーティング、カンファ時に情報共有し、実践に結びつけている。介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる状況やニーズに対して、可能な限り対応するように努めている。ある若年性認知症の利用者は、入居前から利用していた医療ディを継続しながら、ホームでの日常生活に馴染んでいきつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、必要な方には支援している。本人や家族を支えている教会の方々が訪問されたり、入居前から所属している宗教団体の集まりに毎週参加する方の例がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週、馴染みのかかりつけ医(主治医)の往診を受けている。変調時には、主治医に報告・連絡を行い、指示を受けたり、必要時には受診同行したり、臨時の往診を受けることもある。家族の希望も伝え、往診時に同席してもらう事もある。	隔週、主治医の往診を受け、異常の早期発見に努めて健康管理をしている。週1回、訪問看護師による健康アドバイスを受け、安心して生活出来る様支援している。歯科が訪問してくれ、義歯の調整、歯の治療、口腔ケアをしてもらう。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用。訪問前には情報提供書を送り、気になる事柄や状態については訪問時に相談しアドバイスを受けている。かかりつけ医療機関の看護職とも密に連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し情報提供を行い、医師からの説明を受ける際には家族に同伴している。入院中は、相談員・ソーシャルワーカーと情報交換しながら支援に努め、早期退院に向けても、医療側と相談や話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針について」「看取りに関する指針」として文書化し、入所時に事業所の方針と事業所としてできる事を説明している。尚、実際の看取りの支援が始まる際には、主治医からの説明に同席し、再度、本人・家族の希望や意向を確認して支援に取り組んでいる。	入居契約時に終末期における事業所で出来る事は説明している。胃瘻・インシュリン等の医療行為が必要な方以外は終末期の支援は可能である。主治医の指示の下、家族の同意・意向を確認しつつ看取りをし、終の棲家として支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応については、研修を行ったり、事故発生後のミーティングなどで、その都度、確認している。急変時以前の変化に気づけるよう努めている職員がいる一方、実践力に不安を持っている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修を行い、夜間を想定しての火災避難訓練も実施した。今年度は、運営推進会議のメンバーも参加しての避難訓練・誘導を行った。	災害に対する内部研修を行い、災害時の対応方法を理解している。夜間想定訓練を近所の方にも参加してもらい実施している。事業所は災害時の近隣住民の一次避難場所となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	多くの職員が「心がけて対応している」「努めている」と評価しているが、「声の大きさや自尊心への配慮に更に注意が必要」という反省もある。	自己決定が出来る様、全ての職員が言葉かけに注意を払い工夫して自主性を引き出す様にしている。一人ひとりを尊重するよう心掛け、丁寧な言葉使いをし、自尊心を損なわない対応に努めている。	接遇の配慮は心掛けているものの、「自尊心への配慮」については反省すべき点があるとの事。その人らしい暮らしを続けるための支援について今一度話し合われる事を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの職員が、心がけ、努めている。重度化して、思いや希望を表出したり自己決定が困難な方には、本人にとっての安心や安楽を考えながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活支援に努めているが、「職員のペースや都合になっている場面もある」という反省もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける事が困難な方には、訪問理容や美容を導入し、清潔で、その人らしい頭髪支援（男性は髭剃りも）を行っている。また、女性利用者には誕生日や外出時、化粧をしたりなど、おしゃれを楽しむ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自力で食べる事を最優先し、好物や食べたい物を提供している。献立づくりを担っている栄養士は、希望や季節感を大切にし食事が楽しくなる献立づくりに努めている。利用者と職員と一緒に食事を摂り、準備や片づけなども利用者のできる事を一緒にやっている。	栄養士による献立作りとなっているが、入居者の好みを考慮に入れて美味しく食べられる様配慮している。歳時記に合わせた季節を感じさせる献立を作成している。隣の畑から新鮮な野菜の差し入れがある。時には外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、確保の確認と意識づけを行っている。その時々体調や嚥下状態に合わせての献立づくりや形状の工夫、量の調整を行っている。自力摂取できる事を目指しての個別メニューの例もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後、出来ている。自歯を残存している利用者は、週1回、歯科の訪問口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、できる限りの布パンツ使用を基本姿勢として支援している。個々の排泄のサインや排泄パターンを見てのトイレ誘導を行い、本人に負担のない支援を心掛けている。	トイレでの排泄を目指し、トイレ表示を見易く表示して自立を促している。排泄パターン、個々の排泄サインを見逃さず誘導している。座位が可能であれば二人介助にてトイレ支援をしている。温かいおしぼりで清拭をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便は日々の課題である。便秘予防のための水分摂取や乳製品摂取などに取り組んでいる。温電法や入浴、マッサージ等で便秘解消に努めているが、便秘薬でコントロールすることも多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備し、利用者の希望や意思を大切にしている入浴支援を行っているが、職員本位の入浴支援になってしまっている場合もある。入浴中、職員との会話を楽しんでいる利用者もいる。	希望があれば毎日入浴可能となっている。本人の希望・意向を確認して誘導をしている。歳時記に沿って冬至に柚子湯、端午の節句の頃には菖蒲湯をして回想に繋がる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて支援はできている。居室に限らず、本人が安心できる場所（ホールのソファなど）で、休みたい時に休める環境づくりも行っている。眠れない時には、ホットミルクを提供したり、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報はファイルし、いつでも確認できるようにしている。服薬の変更や追加があった際には介護記録や連絡ノートに記し、その後の様子観察を行なうようにしている。かかりつけ薬局とは情報共有し、何かあれば報告や相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる事や好む事を見つけての役割の提供や楽しみごと、気分転換への支援に努めている。毎月行っている「お花を楽しむ会」は、多くの女性利用者が参加し楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃は外気浴や散歩が出来るよう努めている。気候が良い時期には、ドライブや外出先での昼食などの機会を作っている。家族と一緒に外出する機会を持っている方、地域の人の協力を得て毎週外出している方の支援も行っている。	気分転換・外気浴を兼ねて散歩に出掛けている。吉井川河口付近までドライブし景色を楽しむ。百花プラザに行き、庭を散歩したり、牛窓のオリーブ園へ遠足に出掛ける。西大寺公民館で芸能を楽しむ際、地域の方の協力を得て、毎年楽しんでいる。	地域の中には多くの資源があり、恵まれた場所に事業所がある為、今後も継続してそれらを活用し、活動的であることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金として管理している。家族との相談・合意のうえで本人が所持している例があるが、本人の希望通りの使い方を支援する事は困難である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援しているが、電話をかけたり、かかってきた電話で話したりする事が、本人の混乱を招く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのユニットごとに工夫し居心地のよい空間づくりができている。不具合があれば、ユニットのチーム全体で考え、柔軟に空間づくりを行なっている。ホール壁面を利用して季節を感じることが出来る工夫も出来ている。	食堂兼リビングは広く間取りされ、個々の居場所が作られ、居心地良く過ごせる様配慮されている。共用空間の壁面にはキルトやタペストリー等、手造りの作品が飾られ、メダカやグッピーの水槽、観葉植物があり、癒しの空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫したり、スクリーンを利用することで、共有空間の中で一人一人の居場所を作ることはできている。気の合う方同士が過ごせる空間づくりや、反対にトラブル回避のための空間づくりも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでもらうようにしている。居室で過ごす事が多い方については、家族の写真を飾ったり、好みの音楽を流すなど、温かな居心地のよい空間づくりを工夫している。	居室の入口には表札が掲示され、他室と区別している。使い慣れた筆筒や大切な人の位牌や遺影、家族の写真、テレビ、カレンダーを配置して自分の部屋作りをしている。ベッドの下に緩衝材を敷き、落下骨折の予防配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の看板設置やトイレの目印など、わかる工夫をしている。日中過ごす時間の多いホールは、歩行器や車イスで安全に移動出来るよう家具の配置など考慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105391		
法人名	有限会社 オフィスフジワラ		
事業所名	グループホーム あうん		
所在地	岡山県岡山市東区松新町82-6		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105391-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年間、職員の顔ぶれが大きく変わることなく、馴染んだメンバーで共に仕事が出来た。新しく迎えた職員も加えて、人員はより充足し、ゆったりとした支援の実践に繋げることが出来ている。また、事業所として次の理念を大事にしている。◎利用者一人ひとりが、居心地よく自分らしくしていただける生活の支援を行う。◎家族の方とは、日頃から意思の疎通を心がけ、安心と満足を感じていただく。◎家族の方には、共通の目的を持った理解者となっていく。事あるごとに、理念に立ち返り、日々の支援の中で実践に努めており、職員皆で同じ方向に向かって歩めていると思う。今年度は、事業所内研修の年間計画を立て、毎月のミーティング時に研修の時間を織り込んでいくことができたことも評価したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行うミーティングの場で読み上げたり、機会ある毎に、理念に立ち返り、日々の実践につなげていることを確認している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業所としての認知はされている。近隣の住民や学校園との交流もあり、幼稚園の七夕会に招待されたり、近隣の保育園児をホーム畑の芋ほりに招待して一緒に楽しむこともある。また、散歩に出た折には、しっかり挨拶するなど努めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護に関する相談を受けることは多い。地域の小学校の総合学習「高齢者、認知症高齢者を知る」の授業講師を請け負ったり、体験学習の受入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用者やサービスの状況報告は毎回実施。町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加メンバーであり、意見や情報交換は活発に行われており、その都度、議事録を掲示することで周知もしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや確認したいことが起きた折には、気軽に連絡を取っている。地域包括支援センター担当者は、毎回、運営推進会議に参加し地域の情報も交換している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修として、5月、「身体拘束や行動制限をしないケアを目指す！」を実施するなど拘束をしないケアに努めている。尚、緊急やむを得ない場合には「身体拘束に関する説明書・経過観察記録」を用いることを再認識した。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修にて、高齢者虐待防止法について学習した。また、日々、身体を観察を行い異常の発見に努めており、皮下出血や傷を発見した場合は、原因を考え、介助の方法を振り返っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については制度を活用している利用者が居るので馴染みはある。今年、入居後、関係者等の支援によって後見制度に繋がった事例があるので、職員にとっては学びの機会になったと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者への説明や納得は困難である。家族に対しては丁寧な説明を心がけ、理解・納得をしていただいている。また、改定がある時には、文書で報告をしたり、来訪時に報告し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは来所時や個別の連絡の時に気軽に話していただけるよう務めている。また、運営推進会議が外部者に表せる機会になっている。把握した意見や要望は可能な限り、運営やサービスに活かすよう務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニットごとにミーティングを行い、意見交換を行っている。また、管理者は意見や提案を聞く姿勢に努め、聞いた意見や提案は、その都度、代表者に報告し反映できるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に多くを任せている。給与水準については、介護保険の中で勢一杯応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者に多くを任せているが、研修などに参加する事への援助は惜しまない。今年度は、事業所内研修の年間計画を立て、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が行っている。同業者との交流、相互訪問等行いながら、他所から得た情報を事業所に生かす取り組みも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を関係づくりの第一歩と考えているが、本人からの訴えや要望を聞き取ったり、把握することは難しい。入居後は、安心して生活していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談時より、家族の方の困っていることや不安、要望を丁寧に伺うよう努めている。その後、入所に至るまでも、来訪時や電話連絡時に会話を重ねながら関係づくりを図り、安心して利用してもらうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所相談の中で、家族が今困っていることや不安、悩みに耳を傾けながら、必要であろう情報を提供したり、他のサービス利用を紹介するなど支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の入れ替わりもあり、本人と職員と一緒に家事などをしながら共に過ごしている暮らしの場面は、更に増えたと思う。しかし、利用者を介護される立場に置きがちな面はある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念にも掲げているように、事業所にとって大切にしている事である。職員にも、大切な事としての自覚があり、家族とのコミュニケーションや関係づくりに努めている者がほとんどである。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、家族の来訪は、温かく迎え入れ、関係が継続するよう、また来訪していただけるよう努めている。また、家族と、自宅や自宅付近の馴染みの場所へ行ったり、墓参りに行ったりしている方への支援にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しない取り組みはできている。利用者個々の性格や特性を把握し、職員が介入しながら、互いに良い関わりが持てるように努めている。一方、トラブルになりがちな関係もあるので、職員はトラブルに発展しないよう配慮し予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、本人や家族と築いた関係を大切にしている。入院により退所になった方には会いに行ったり家族から様子を聞くなど、相談や支援に努めている。また、退所された方の家族が、再々訪ねて来られている事例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの職員が、本人の思いや希望の把握に努めており、自ら表出できない方についても出来るだけ本人の立場になって考える努力をしている。一方、希望や意向を理解しても、叶えられない現実があることへのジレンマを抱えている者もいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から情報を集めたり、「生活歴シート」を活用して家族からの情報収集を行うなど、把握に努めている。本人との会話から新しい情報を得た場合には、記録に残し、職員皆で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日勤・遅出・夜勤出勤時の際の申し送りや一人ひとりの状態などを引き継ぎながら現状把握に努めている。月1回開催のミーティングも把握する機会である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでの話し合いを元に、介護計画・モニタリングを行っている。また、できるだけ、本人や家族の希望や思いを聞き取り、それを反映した計画作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、日々の様子やケアの実践・結果など、わかりやすく具体的に記録するよう努めている。気づきや工夫は引継ぎ書や連絡ノートに記入されることが多く、申し送りやミーティング、カンファ時に情報共有し、実践に結びつけている。介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる状況やニーズに対して、可能な限り対応するように努めている。ある若年性認知症の利用者は、入居前から利用していた医療ディを継続しながら、ホームでの日常生活に馴染んでいきつつある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、必要な方には支援している。本人や家族を支えている教会の方々が訪問されたり、入居前から所属している宗教団体の集まりに毎週参加する方の例がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週、馴染みのかかりつけ医（主治医）の往診を受けている。変調時には、主治医に報告・連絡を行い、指示を受けたり、必要時には受診同行したり、臨時の往診を受けることもある。家族の希望も伝え、往診時に同席してもらう事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用。訪問前には情報提供書を送り、気になる事柄や状態については訪問時に相談しアドバイスを受けている。かかりつけ医療機関の看護職とも密に連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し情報提供を行い、医師からの説明を受ける際には家族に同伴している。入院中は、相談員・ソーシャルワーカーと情報交換しながら支援に努め、早期退院に向けても、医療側と相談や話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針について」「看取りに関する指針」として文書化し、入所時に事業所の方針と事業所としてできる事を説明している。尚、実際の看取りの支援が始まる際には、主治医からの説明に同席し、再度、本人・家族の希望や意向を確認して支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応については、研修を行ったり、事故発生後のミーティングなどで、その都度、確認している。急変時以前の変化に気づけるよう努めている職員がいる一方、実践力に不安を持っている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修を行い、夜間を想定しての火災避難訓練も実施した。今年度は、運営推進会議のメンバーも参加しての避難訓練・誘導を行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	多くの職員が「心がけて対応している」「努めている」と評価しているが、「声の大きさや自尊心への配慮に更に注意が必要」という反省もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの職員が、心がけ、努めている。重度化して、思いや希望を表出したり自己決定が困難な方には、本人にとっての安心や安楽を考えながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活支援に努めているが、「職員のペースや都合になっている場面もある」という反省もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける事が困難な方には、訪問理容や美容を導入し、清潔で、その人らしい頭髪支援（男性は髭剃りも）を行っている。また、女性利用者には誕生日や外出時、化粧をしたりなど、おしゃれを楽しむ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自力で食べる事を最優先し、好物や食べたい物を提供している。献立づくりを担っている栄養士は、希望や季節感を大切に食事が楽しくなる献立づくりに努めている。利用者と職員と一緒に食事を摂り、準備や片づけなども利用者のできる事を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、確保の確認と意識づけを行っている。その時々体調や嚥下状態に合わせての献立づくりや形状の工夫、量の調整を行っている。自力摂取できる事を目指しての個別メニューの例もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後、出来ている。自歯を残している利用者は、週1回、歯科の訪問口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、できる限りの布パンツ使用を基本姿勢として支援している。個々の排泄のサインや排泄パターンを見てのトイレ誘導を行い、本人に負担のない支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便は日々の課題である。便秘予防のための水分摂取や乳製品摂取などに取り組んでいる。温浴法や入浴、マッサージ等で便秘解消に努めているが、便秘薬でコントロールすることも多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備し、利用者の希望や意思を大切にしている入浴支援を行っているが、職員本位の入浴支援になってしまっている場合もある。入浴中、職員との会話を楽しんでいる利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて支援はできている。居室に限らず、本人が安心できる場所（ホールのソファなど）で、休みたい時に休める環境づくりも行っている。眠れない時には、ホットミルクなどを提供したり、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報はファイルし、いつでも確認できるようにしている。服薬の変更や追加があった際には介護記録や連絡ノートに記し、その後の様子観察を行なうようにしている。かかりつけ薬局とは情報共有し、何かあれば報告や相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる事や好む事を見つけての役割の提供や楽しみごと、気分転換への支援に努めている。毎月行っている「お花を楽しむ会」は、多くの女性利用者が参加し楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は外気浴や散歩が出来るよう努めている。気候が良い時期には、ドライブや外出先での昼食などの機会を作っている。家族と一緒に外出する機会を持っている方、地域の人の協力を得て毎週外出している方の支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金として管理している。家族との相談・合意のうえで本人が所持している例があるが、本人の希望通りの使い方を支援する事は困難である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援しているが、電話をかけたり、かかってきた電話で話したりする事が、本人の混乱を招く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのユニットごとに工夫し居心地のよい空間づくりができています。不具合があれば、ユニットのチーム全体で考え、柔軟に空間づくりを行なっている。ホール壁面を利用して季節を感じることが出来る工夫も出来ています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫したり、スクリーンを利用することで、共有空間の中での一人一人の居場所を作ることはできている。気の合う方同士が過ごせる空間づくりや、反対にトラブル回避のための空間づくりも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでもらうようにしている。居室で過ごす事が多い方については、家族の写真を飾ったり、好みの音楽を流すなど、温かな居心地のよい空間づくりを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の看板設置やトイレの目印など、わかる工夫をしている。日中過ごす時間の多いホールは、歩行器や車イスで安全に移動出来るよう家具の配置など考慮している。		